



国立成育医療研究センターのご案内

看護職員募集要項

NATIONAL CENTER FOR CHILD HEALTH AND DEVELOPMENT



あなたの無限な可能性を発揮できる看護師を目指しませんか？

当院は、「小児・周産期の病院で働きたい」と希望する方にとって、自己成長できる職場です。看護部の教育体制は、スタッフが自己成長できるキャリアラダーを取り入れ、成育看護の専門性に基づくリーダーとなる人材育成に力を入れています。個々の成長が組織全体の成長となるよう支援しています。専門看護師や認定看護師の資格取得するための研究休職制度もあります。

子どもをケアする看護職員にとって一番大切なことは、常に倫理的感受性を持ち、子どもの権利を擁護すること。これは成育看護の基盤であり見失ってはいけないものです。さらに、子どもの権利条約の4つの原則を踏まえ、「子どもの持つ力を引き出す関わり」「子どものセルフケア能力を高め、サポートする実践」「子どもの意思決定を支えるケア」「家族の理解を促進するケア」「きょうだい支援」「family-centered care（FCC）」「安全で安楽な助産ケア」など、患者さん・ご家族に合わせた様々な看護を展開しています。発達段階に合わせ、医療・学校教育・福祉が連携し、患者さんと共同した治療やケアを行います。看護職員は、その看護ケアを通して、患者さんからも多くのことを学びます。

就職活動をされている皆様へ

皆様は、社会人としてスタートラインに立つ施設を、何に重きをおいて選んでいますか？
看護師は、卒後の教育を受けるだけではなく、患者さん・ご家族のケア、多職種との連携、院外を超えたネットワーク等、組織の中でその職場環境の影響を受け、人として成長していきます。当院には人材育成の仕組みと豊富な経験があります。皆様には、無限の可能性があります。私たちとともに、あなたの能力が発揮できる看護師を目指しませんか？

「小児・周産期医療や看護を学びたい!専門性を磨きたい!」
～自己成長できるフィールドがここにある～

みなさんは、どのような看護師・助産師になりたいですか？
「命をはぐくみ、子どもと家族の未来を支える看護をめざします」
これは、当院の看護部の理念です。看護部の教育は、理念をふまえ、患者・家族の QOL の維持、向上を目指した質の高い成育看護を実践できる看護職員を育成することを目的としています。

当院の教育体制は、個々の取り組みを支援し、当院の看護職員としてのキャリアをデザインできるよう能力開発プログラムを作成しています。経験年数別ではなく、年齢を重ねても、個々の実践能力に合った研修を受講していけることが特徴です。研修は、専門看護師や認定看護師が講師を担当し、質の高い研修を受講することができます。

所属部署では、看護師長・副看護師長をはじめ、実地指導者と呼ばれる 4 年目以上の看護師が、入職される新人看護職員の特徴に合わせ、看護技術の指導や精神的支援を行っています。
また、2,3 年目看護師がサポーターとなり、精神的支援をしています。新社会人として、そして新人看護職員として働く中では、嬉しいことも大変なこともあると思います。そんな時は、2,3 年目看護師が、少し前まで新人看護職員だったからこそわかる経験で、親身になって話を聞き、職場に一日でも早く慣れるようサポートします。
所属部署以外でも、看護部長・副看護部長をはじめ、教育担当看護師長・教育担当副看護師長やリエゾン精神看護専門看護師が、部署と連携をとりながら、成長を支援します。

当院は、「小児・周産期医療や看護を学びたい!専門性を磨きたい!」という志を持つ仲間がたくさんいます。また、看護職員だけでなく、専門性の高いメディカルスタッフがたくさん働いています。同じ志を持つ多く仲間と出会い、共に働き、自己を成長させてみませんか？

『ひまわりの花言葉 あなたは素晴らしい
素晴らしいあなたにたくさんの素敵なお出会いと成長がありますように』（新人看護職員 ポートフォリオ 表紙より）

私たちは、みなさんがどのような看護師・助産師になりたいかを大切にし、一人ひとりの成長を、病院内全体でサポートします。

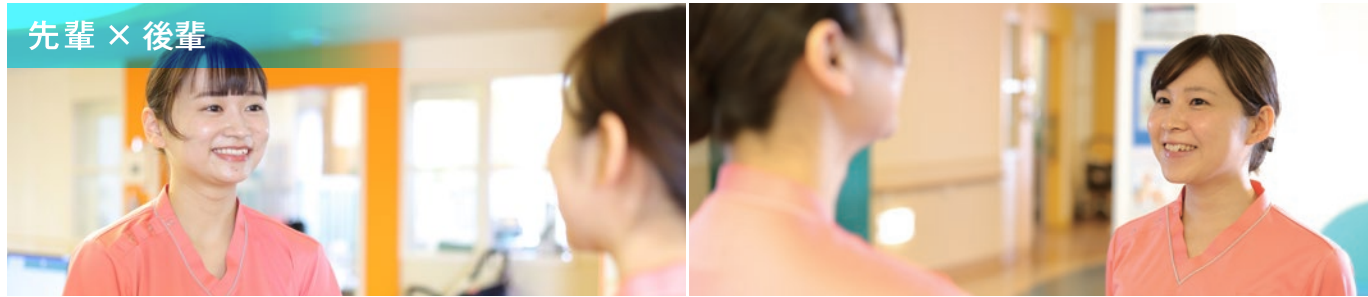
ともに学び、ともに成長する。一人ひとりの成長意欲をバックアップ。

国立成育医療研究センターは成育医療のモデル医療や高度先駆的医療を提供するとともに、情報発信の役割を担っています。そのため、看護においても、その役割を果たすことが求められています。
“看護部の理念をふまえ、患者・家族のQOLの維持、向上を目指した質の高い成育看護を実践できる看護職員を育成する”という教育目的のもと、看護職員が看護専門職として責務を遂行するために必要な能力を獲得・維持・向上するための教育体制を整え、成長意欲をバックアップしています。

看護部教育体制プログラムでは看護実践能力を5つのレベルと7つの力に分類しています。それぞれの目標が達成できるように学習項目に沿いそれぞれの成長を支援しつつ、看護職員一人ひとりが確実に看護実践能力に磨きをかけていけるプログラムを準備しています。「ともに学び、ともに成長する」をモットーにお互いに支援しあいながら成長することを大切にしています。

看護部教育体制プログラム											
	成育医療のジェネラリスト／専門看護師／認定看護師／ 学会認定資格(移植コーディネーター／臨床研究コーディネーター など) など					幹部看護師／認定看護管理者／ 医療安全管理者 など		教員／教育担当者 など		研究者 など	
レベルⅤ		急変時対応 (BLS)	PALS	チームのコー ディネーション	看取りにおける スタッフ支援	看護 マネジメント				学会発表 (主任研究者)	
レベルⅣ		急変時対応 (BLS)	PALS	ファシリ テーション	倫理的課題に対 するアプローチ	診療報酬と 看護	幹部看護師任用 候補者研修			学会発表 (主任研究者)	
		看護記録の 質的評価			エンド・オブ・ライフ ケアにおける 意思決定支援	問題解決②					
レベルⅢ	臨床判断②		PEARS	アサーティブ コミュニケーション	意思決定 支援②	問題解決①		キャリア デザイン②	実習指導者 講習会	学会発表	
	緩和ケアにおける アセスメント			入退院支援	エンド・オブ・ライフ ケアにおける 家族支援			後輩育成③			
		医療安全②						後輩育成②			
		急変時対応 (BLS)									
レベルⅡ	臨床判断①		病態把握	リーダー シップ	意思決定 支援①			後輩育成①		看護研究	学会発表
		急変時対応 (BLS)	PEARS	メンバー シップ	緩和ケア			キャリア デザイン①		事例検討	学会参加
				医療連携						看護実践 報告②	
レベルⅠ	多重課題対応					医療機器の 取り扱い	医療安全 管理体制	フォローアップ (1・6・11か月)		看護実践 報告①	学会参加
	対象理解と看護過程の展開		1年以内に到達を 目指す看護技術	チーム医療に必要な コミュニケーション	看護職の倫理	看護必要度	院内感染予防 管理体制				
	フィジカル アセスメント	看護記録	静脈注射と 静脈血採血	社会における 自施設の役割	チーム医療に おける 看護職の役割		情報管理				
		褥瘡・創傷の 予防	ハイリスク 薬の取り扱い								
		医療安全①	病態把握								
		感染対策	麻薬・向精神 薬の取り扱い								
		急変時対応	NCPR								
		急変時対応 (BLS)									
看護部で実施する研修 所属部署で実施する研修 多職種合同の研修 または 外部研修											
7つの力	ニーズを とらえる力	ケアする力		協働する力	意思決定を 支える力	マネジメント する力		自律する力	情報発信する力		
	看護実践能力					組織的役割遂行能力		自己教育・研究能力			

先輩 × 後輩



若手の先輩が教育を担当。技術面からメンタル面までしっかりフォロー！

—— お二人のご関係を教えてください。

A先輩：同じ病棟に所属する先輩・後輩の間柄ですね。私が入職4年目で、Bさんが1年生です。

B後輩：Aさんは私たちの教育指導担当（メンター）なんです。技術的なことからメンタル的なことまであたたかくフォローしてくださる、とても心強い存在です！入職直後から『手の洗い方』『エプロンの付け方』といった基礎の基礎から教えていただき、今に至ります。

A先輩：成育では入職4年目の看護師がメンターになるケースが多いんです。最初は「自分にできるのかな？」という不安もありましたが、私自身が先輩たちに教えていただいたことを今度は私が後輩に伝えていきたいなと思ってがんばっています！

B後輩：先輩たちは忙しい中でもいつも私たちを気遣ってくださるんですよ。「大丈夫？」と声をかけていただくたびに、安心感をおぼえます。

—— お互いの仕事振りを見て、どう感じますか？

B後輩：Aさんのことは、もう本当にいろいろな面で尊敬しているんですが、

例えばコミュニケーション面ひとつとってもすごいなと感じています。患者さんからも家族の方々からも信頼されていて、時には患者さんと一緒に遊んであげたりしていて…。

A先輩：そういうBさんこそ、患者さんとコミュニケーションを取るのが上手なんです。患者さんが「まだお風呂に入りたくない」なんて言っているときも、やる気スイッチを入れてあげるのがうまいんです。

B後輩：まだまだです！でも嬉しいですよ、がんばります。

—— そういえば、お二人は同郷のご出身なんですよ！

A先輩：そうなんです。Bさんが入職した時、言葉ですぐに「同郷だ！」と分かって、なんだか嬉しくなりました。

B後輩：私たちの地元って、小児科の大きな病院が少ないんですよ。だからこそ上京して、看護師として成長できる当院を志望したんです。

A先輩：成育は、最先端の小児医療に携われるまたとない職場。これから一緒にがんばっていきましょう！

助産師



生まれたばかりの赤ちゃんの泣き声が聞こえる。喜びを実感する瞬間です。

看護大学時代に、母性看護の実習でお産を見学する機会をいただきました。分娩室の緊迫感、スタッフの一体感、そして赤ちゃんの泣き声が聞こえた時の嬉しさ、感動…。「お産ってなんてすばらしいだろう」と大きな感銘を受けたことが、助産師を志すきっかけになりました。助産師というと、シンプルに『お産に携わる仕事』だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、実はそれはほんの一部に過ぎません。助産師の役割は、妊娠～出産～育児までを含めた周産期を中心に、女性のライフサイクルをトータルにサポートしていくこと。最近ではティーンの方々に向けた性教育などに携わる機会もあり、その仕事領域はますます広がっています。だからこそ当院には、それぞれ異なる分野に強い助産師が多く、母乳の知識が豊富な方、グリーフケアに精通した方、研究に力を注いでいる方など、頼もしい先輩や同僚たちがたくさん在

籍しています。その中で私の強みはというと、やはり『お産介助』でしょうか。お産というのは常にケースバイケース。お母さんお一人おひとりのお気持ちに寄り添いながら、日々、より良いお産を追求し続けていきたいですね。

【ひとことコメント】

「熱量の高い人」が集まっている当院。私自身、どんなに経験を重ねても常に課題が見つかり、なかなか100%の満足には至りません。学びたい人、成長したい人にはぴったりの環境だと思います。



男性看護師



どんな時も『子どもは子どもらしく』いられるよう、最大限のサポートを。

子どもに関わる仕事がしたくて看護師を志し、当院に入職しました。入職後は手術室に配属。手術前～手術後の患者さんのケアや執刀医のサポートが主な仕事になるので、患者さんとコミュニケーションを重ねる機会はあまりありません。だからこそ、退院し元気になった患者さんの姿を見ることができた時には言葉にできない嬉しさが湧き上がってくるんです。先日、新人時代に出会った患者さんをお見掛けしました。手術の時には身体を動かすことも話をすることもできなかったお子さんが、今では院内の遊具スペースを駆け回って、楽しそうに歌ったりおしゃべりしたり…。「うわあ、こんなに元気になって!」と感動してしまいました。たとえ手術という制限された状況下であっても、できるだけ『子どもは子どもらしく』いられるよう患者さんの気持ちに寄り添うというのが私の看護観です。寝ている状態で点滴をする

のが苦手な患者さんには、座った状態でできるよう医師に相談したり、手術後にバルーンカテーテルが入っているのが苦手な患者さんには、寝ている間に外してあげたりと、できる限りのことをしてあげられるよう心掛けています。

【ひとことコメント】

男性看護師はまだまだ少数派。結束は固く、看護師宿舎でもよく部屋を行き来していました。仕事に性別は関係ありませんが、力仕事などは率先して担当しています。



育児と両立している看護師



「ママがんばってね!」かわいい応援がモチベーションリソースです。

結婚しても、出産しても、ずっと働き続けたい。看護師になる前から当たり前のようにそう考えてきました。入職して最初に配属されたのは NICU。NICU というとハードな職場だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、当院には仕事と子育てを両立しながら第一線で活躍し続けている先輩看護師がたくさんいます。だから私も、1 度目の産休・育休から復職する時には迷わず NICU を志望しました。2 度目の復職時には、少し通勤時間がかかるところに新居を構えたこともあり、3 交替制の NICU から 2 交替制の病棟勤務へとキャリアチェンジ。育児時間（30 分短縮勤務）を活用したフルタイム勤務を選び、夜勤にも積極的に入るよう心掛けてきました。もちろん復職前には家族としっかり相談し、「夜勤は月 2 回、○曜日と○曜日」といった希望を病棟側とすり合わせながら徐々に生活リズムを掴み、

現在では自ら希望し月 4 回の夜勤もこなしています。子どもは今、5 歳&4 歳。小さいながらも看護師という仕事のことを分かってくれていて、最近では「ママがんばってね!」「ママかっこいい!」とお手紙をくれたりするんです。

【ひとことコメント】

院内保育園や復職前相談会など、バックアップ体制が充実している当院。感染症の影響で各地の保育園が休業した時には、臨時保育も実施してくれてとても助かりました!



感染管理認定看護師



大切なのはチームの力。当院に関わるすべての人を、感染から守りたい。

NICU に勤務していた頃に、感染が一つの要因となり状態が悪化し亡くなられた患者さんがいました。少し早く、少し小さく生まれた赤ちゃんでした。ご両親と一緒にうちに帰してあげられなかった悲しさ・悔しさが感染管理認定看護師を目指すきっかけとなりました。感染管理認定看護師には、患者さんやご家族はもちろん、当院に関わるすべての人を感染から守る役割があります。適切な感染対策が行えていない場合には指導することも多々あります。時に口うるさい存在かもしれませんが、それも私に課せられた大切な役目だと思っています。感染対策はひとりで行うことはできません。大切なのはチームの力。特に、新型コロナウイルス感染症対策の過程ではそれを痛感しました。当院に出入りする全ての方々へ向けて院内感染対策について広報したり、不足しがちな物品を確保したり、出入口

の制限といった大規模なレイアウト変更を行ったり…。様々な対策を実行するためには、事務や総務をはじめ多くのスタッフの力が必要不可欠でした。感染管理認定看護師として何ができるのか、これからも周囲と連携を取り、自分自身に問いかけながら、支援していきたいと思います。

【ひとことコメント】

誰にとっても初めての体験となった新型コロナウイルス感染症対策。試行錯誤もありましたが、手指消毒など従来からの感染対策が間違っていなかったことも再認識できました。



認定レシピエント移植コーディネーター



患者さんにご家族の意思を尊重し、100人以上のチームで肝移植に臨む。

成育医療研究センターの肝臓移植プログラムは2005年にスタートし、現在までに700例という世界トップレベルの実績を重ねてきました。1例目の肝移植の際、私はICUに所属しており、患者さんご家族のサポートに携わりました。2008年には院内の移植コーディネーターに任命され、2011年には日本移植学会による『認定レシピエント移植コーディネーター』制度の発足とともに認定を受け、現在に至ります。私たちのミッションは、善意によって提供された命のプレゼントを患者さんやご家族に安全につなぎ、継続した自立支援を行っていくこと。患者さんやご家族の意思を尊重し、移植前～移植後の過程を通じてプロフェッショナルとしてサポートしていくことが重要です。1例の肝移植に関わる医療スタッフは100人以上。外来、NICU、手術室、病棟、そして患者さんご家族もチームの一員です。移植後1～2年が経過した患者さんのお母さんから

「このチームで移植が受けられて良かった。ICUにいた時、あんなに辛い思いをしたはずなのに、みなさんのおかげで乗り越えられた」という言葉をいただいた時、これがやりがいなのかと、胸が熱くなりました。

【ひとことコメント】

小さな患者さんには「肝移植は、病気を持つおともだちを元気にしたいと思うやさしい人からの贈り物。お薬は「元氣のもと」を守ってくれるものなんだよ」と説明しています。



小児救急看護認定看護師



業界内外へと広がる活動領域。専門性を活かして、社会全体に貢献したい。

小児救急看護認定看護師として、現在、特に2軸の活動に力を注いでいます。ひとつは『院内トリアージ』。救急外来を受診した患者さんに対して、病態の緊急性と重症化の予測を行い、治療の優先度を決定していくことです。成育医療研究センターは、小児救急医療における院内トリアージの先駆者的な存在であり、緊急度判定支援システム『JTAS』も導入し、活用を進めてきました。学会などで意見や情報を求められることも多く、当院ならではの使命を実感しています。もうひとつは、消費者庁と独立行政法人国民生活センターが共同で実施している『医療機関ネットワーク事業』への参画。救急外来を受診した子どもの事故情報を発信し、事故防止につなげていくことが重要です。この時に一番大切なのは、なぜ事故が起きたのか、その原因や状況などを詳しく聞き取り、同じ事故を防ぐためのヒントを抽出していくことです。私たちが提供した情報は、医療機関ネットワーク事業を介して詳しく検証・分析され、消費者やメーカーへと発信されていきます。これ

までに、抱っこひもからの落下事故の情報をもとにメーカーの安全基準が見直されたり、卓上ケトルによるやけど事故の情報をもとに安全性に配慮した新製品が開発されたりと、様々な実績を生み出すことができました。今後も私たちならではの専門性を活かして、広く社会に貢献し続けていきたいですね。

【ひとことコメント】

2020年、小児救急看護認定看護師は『小児プライマリケア認定看護師』という形に進化を遂げました。後輩たちとともに、さらなる使命を追求し続けていきたいです。



小児看護専門看護師



お子さんの健康の向上に寄与するために、自分の役割を追求し続けたい。

私が小児看護専門看護師を志すようになったのは、NICUでの経験がきっかけでした。患者さんやご家族の方々と接する日々の中で「もっと自分の引出しを増やしたい」「系統的に学び直したい」という思いが膨らみ、当院の『研究休職制度』を活用し大学院へ。復職後はNICU⇒学童・思春期病棟などを経て、現在は主に移植外科などを担当する病棟に勤務しています。専門看護師になった現在も、仕事の軸は「実践」。一スタッフとして質の高い看護をめざすとともに、フラットな視点で看護の在り方を見つめ直し、お子さんの健康の向上に寄与していきたいと考えています。また多職種、他部門との調整も役割の一つです。NICUでの事例で、従来は「経管栄養中のお子さんを家族は抱っこ禁止」という暗黙のルールがありました。しかし、お子さんが泣いている時はママや家族に抱っこしてもらった方が理想です。文献を調べ、医療安全管理室に確認を取り、周囲のコンセンサスを得た上で新たなルールを決め、運用を開始しました。現在では栄養注入中のお子さんも家族が抱っこ可能になり、私にとって

も大切な事例のひとつになりました。最近では、CNS(専門看護師)会の開催や、NST(栄養サポートチーム)活動といった組織横断のプロジェクトにも力を注いでいます。まだまだ道半ばではありますが、将来的には院内はもちろん地域にも貢献できるよう、自分の役割を追求し続けていきたいですね。

【ひとことコメント】

仕事の上で迷った時には「子ども」が主語になっているか「医療者の都合で考えていないか」と自分に問いかけます。それが私たちの原点であり永遠のテーマでもあるのだと感じています。



リエゾン精神看護専門看護師



こころと身体、人と人…。あらゆるものの「橋渡し」できる存在に。

入職して最初に配属されたのは、小児がんやこころの患者さんが多く入院されている病棟でした。その頃から慢性疾患をお持ちの患者さんの看護に興味を持っていたのですが、その後、思春期の患者さんと向き合う移植関連病棟での勤務や、成年に達する（達した）患者さんのメンタルケアに取り組む『トランジション外来』の立ち上げなどに携わる中で、身体だけでなくこころのケアにも重点を置く『リエゾン精神看護専門看護師』を志すようになったのです。小さい頃から慢性疾患を抱えてきた患者さんたちが、思春期、成年期へと歩みを進めていく中で、こころ豊かに生きていくためにはメンタルヘルスの維持が重要な鍵を握っており、それを支援していくことが私たちのミッションです。私は 2021 年 12 月に専門看護師となり、現在はリエゾンチームの一員として、これからの活動内容を模索している段階ですが、大切にしているのは「橋渡し」というキーワードです。例えば、リエゾンチームには医師や心理士といった専門家が所

属していますが、専門家ならではの深い見立てを現場で実践するためには、現場の看護師たちの理解が必要不可欠。私が専門家と看護師との間に立つことで、スムーズな連携を実現していきたいと考えています。患者さんの身体とこころ、患者さんとご家族、専門家と現場…。あらゆるものを「つなぐ」存在として、力を尽くしていきたいですね。

【ひとことコメント】

専門看護師としての知見を活かし、患者さんだけではなく看護師たちのメンタルヘルスサポートにも力を注いでいきたいと考えています。既に窓口をオープンし、面談などに取り組んでいます。



遺伝コーディネーター



「心強い存在です」というお言葉に、この仕事の意義を実感する。

看護大学時代、遺伝看護のゼミに所属していました。当時は遺伝にロマンのようなものを感じており、遺伝コーディネーターという職域のある当院への入職を決めたのです。近年、遺伝医療の進歩に伴い、染色体異常や遺伝性疾患の出生前診断、がんの発症前診断、遺伝子治療などに対する期待は高まる一方。当院では国内で唯一、当院でしか受けられない検査なども実施しており、全国から検査希望の方々がお見えになります。私たち遺伝コーディネーターの役割は、検査を受けるか否かの意志決定の段階からお一人おひとりに寄り添い、病棟やラボなどと連携しての日程調整、検査前後のカウンセリングまでをトータルに支援していくこと。検査を受ける方々は深い悩みや葛藤を抱えていらっしゃるが多く、ご本人やご家族にとって人生の岐路ともいえるような重大な局面に立ち会うことも少なくありません。私たち自身も常に自らの倫理観と向き合い、時には患者さんと一緒に涙を流したり、医師をはじめとするチームの仲間と話し込んだりすることもあるほどです。学生時代に感じていた

ロマンではなく、シビアな現実と向き合うこともしばしばですが、だからこそ「自分のような立場の人間にとって、本当に心強い存在です」というお言葉をいただくたびに使命感が湧いてきます。自らの存在意義を実感しながら、この道を追求し続けています。

【ひとことコメント】

2023年4月より大学院に通い「遺伝看護専門看護師」の資格の取得をめざすことに決めました。遺伝は究極の個人情報。それに触れる者として、知識にもスキルにも磨きをかけ続けていきたいです。

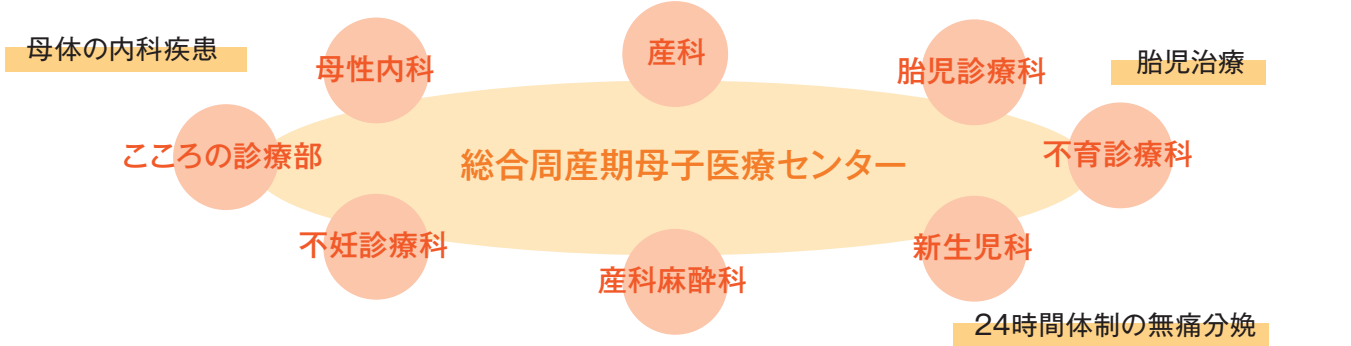


私たちが大切にしている看護実践

病棟	発達段階	主な診療科	看護内容
PICU	新生児から思春期 (平均年齢は2〜3歳)	集中治療科	生命の危機にある患者や高侵襲の手術直後の患者に対して、ECMOなどの特殊機器を用いた治療や、高度な知識や技術を駆使した看護を提供しています。緊急場面では何よりも多職種との連携が重視されるため、日頃よりコミュニケーションが良好に図れるように取り組んでいます。
NICU	新生児	新生児科を主科とし、 外科系・内科系各科	500g未満の出生児や24週未満で出生した、ハイリスク児の集中治療看護や手術を要する児の先駆的治療に対応できる専門的知識・技術を、親子の愛着形成を重視しながら提供しています。NICU内で年間約130例の手術を実施しています。
4GCU	新生児、乳児	新生児科を主科とし、 外科系・内科系各科	育児や成長発達を助け、円満な家庭復帰を目指した家庭支援を行っています。在宅医療に移行する児は、総合診療部や中間ケア病床と定期的なカンファレンスを行い、MSWや地域と連携し、円滑な家庭復帰を目指した育児・退院指導を行っています。
6階東 MFICU	周産期医療を必要とする成人期、 新生児期	産科、胎児診療科、 母性内科、 こころの診療部、 新生児科	ハイリスク妊産婦に対し、最良な状態で出産を迎えられるよう、安心・安全な環境、心に寄り添う看護を提供しています。また、産後は多職種や地域と連携して育児環境を整え、個別性に沿った看護を提供しています。
6階西・ 6GCU	周産期医療を必要とする成人期、 新生児期	産科、胎児診療科、 母性内科、 こころの診療部、 新生児科	母児とその家族が持つ産み育てる力、生まれてくる力を育み、発揮できるよう安心、安全な環境を提供し支援しています。また、助産外来、母乳外来、産前指導など運営し看護を提供しています。
7階東	新生児、乳幼児、 学童期	外科、泌尿器科、 眼科、総合診療科	主に新生児から学童期の外科的疾患を持つ子どもが入院し、それぞれの成長発達に合わせた看護を行っています。手術や検査に対する心の準備の支援(プリバレーション)を行い、不安や苦痛が少しでも軽減できるような看護を行っています。
7階西	新生児、乳幼児、 学童期	脳神経外科、 整形外科、 形成外科、耳鼻科	成長段階に合わせ繰り返し手術を受ける患児が多いため、創管理、ドレーン管理、リハビリ、栄養管理等入院前から退院後まで幅広い支援を行っています。多職種や訪問看護等と連携し、退院後の生活環境を整える支援に力を入れています。
8階東	乳幼児	循環器科、心臓血管外科、 腎臓・リウマチ科膠原病科、 神経内科	先天性心疾患や腎不全などの病気を持つ子ども達が入院しています。補助人工心臓を装着した患者の看護を充実させるため、人工心臓管理技術認定士もいます。また、心臓移植(国内・海外)を受ける患者や家族の支援を行っています。
8階西	乳幼児、学童期	小児がんセンター 腫瘍科	小児がんの患児・家族が安心して治療が受けられ、その子らしい生活を送る事ができるようにサポート体制を構築しています。また、疾患の再発による終末期の患児に対する緩和ケアや精神的ケアなど幅広い視野でサポートできるように関わっています。
9階東	乳幼児	総合診療科	緊急入院が多く、患者・家族の不安に寄り添った看護ができるように心がけています。また、在宅移行患者の退院支援では、訪問医や訪問看護師と連携しながら患者・家族に適した在宅調整ができるように検討しています。
9階西	乳幼児	移植外科、 アレルギー科、 内分泌代謝科	臓器移植を受ける患者と家族を支え、急性期看護や退院後の生活を見据えた指導を移植コーディネーターと協働し行っています。またアレルギーエドゥケーター、糖尿病療養指導士と連携し、入院前から退院後まで、患者のライフステージに沿った関わりを心がけています。
10階東	新生児、乳幼児 学童・思春期	総合診療科	総合診療科をメインとして、緊急入院を受け入れている病棟になります。急性期にある様々な疾患の患者さんの看護を行っている病棟です。突然の病気やけがで不安な入院を多様な知識と技術で支援しています。
10階西	学童・思春期	小児がんセンター 腫瘍科	小児がんは、治癒が見込める病気となってきています。病気と闘いながら成長発達する患者とその家族を多職種チームで支え、その子どもの持っている力を引き出すような看護を心がけています。
11階東	思春期・成人	総合診療科、 不妊診療科	小児期より疾患を抱え成長した患者の社会生活の自立を目指した援助を行っています。また、移植手術ドナー患者や不妊症の患者に対して、様々な葛藤や不安を傾聴し、細やかな配慮を心がけ、治療に専念できるよう支援しています。
11階西	周産期医療を必要とする成人期、 新生児期	産科、胎児診療科、 母性内科、 こころの診療部、 新生児科	出産後のお母さんと赤ちゃんの病棟です。母児同室・母乳育児を推奨しており、退院してからの生活を視野に入れて丁寧に関わっています。また、当院で出産した方を対象に、産後ケアを行っています。
手術室	胎児〜成人まで (70%が12歳以下)	外科、移植外科、脳神経外科、 泌尿器科、心臓血管外科、 整形外科、形成外科、眼科、 産科、循環器、放射線科など	先天性の異常や奇形に伴う手術が多く、成長・発達段階に応じて、複数回手術を受ける患者もいます。術前・術後訪問や、CLSと連携し、患者や家族への精神的なサポートと、手術の経験がプラスの経験と感じられるような関わりを心がけています。
救急センター	当センターを受診するすべての年代の方を対象	救急診療科、 周産期・母性診療センター	院内トリアージや重症患者対応に加え、多職種と連携した子ども虐待対応・子どもの事故予防啓発、ホームケア指導などを行っています。子どもたちの生命を守り、かつ子どもの健やかな成長発達のために、保護者が安心して育児を行えるようにも支援しています。
外 来	外来を受診するすべての患者	産科、小児科	外来では、健康障害のある患者のフォローアップや看護相談・各種検診を行い安心して生活ができるように支援しています。さらに、移行期看護として、子どもから大人になることへのサポートを行っています。
もみじの家	0歳〜18歳未満	在宅診療科、 緩和ケア科	医療型短期入所施設であり、医療ケアを生活を支える手段の一つと捉えて、可能な限り自宅でのケアを引き継ぎ、時には自宅での生活をより良くするためにどうしたらよいかという視点でサポートしています。また、最後の時間を家族と過ごすために支援しています。

周産期・母性診療センター

国立成育医療研究センターは MFICU6 床、NICU21 床を有する総合周産期母子医療センターです。分娩件数は年間約 2200 件、24 時間体制で無痛分娩に対応しており、全経膈分娩の約 7 割が無痛分娩で出産されるという特徴があります。さらに、胎児診療科があり、胎児治療を行っています。また、正常といわれる妊産婦の妊娠・分娩管理だけでなく、ハイリスク妊産婦の妊娠・分娩管理が行われています。



取り組み

1 助産師教育

院内教育では能力開発プログラム助産師版を使用しています。病棟では助産師の技術向上を目的として、分娩介助、母体急変時対応、新生児蘇生について、定期的にシミュレーション教育を行っています。また、助産師外来、母乳外来の中心的役割を果たすアドバンス助産師の取得に向け、入職時から、分娩介助や保健指導、研修などを調整し、ポートフォリオとして自己でも管理しています。



2 AI車いす

出産後の患者さんを病室まで自動運転で移動させる「WHILL 自動運転システム」を開始しています。同サービスはこれまで、病院外来や空港などでの活用事例はありましたが、病棟内での利用は国内初となります。



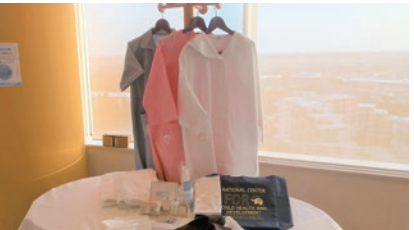
3 助産師外来・母乳外来

助産師外来では妊婦さんの話をしっかり聴き、そこから保健指導につなげています。母乳外来は当センターで分娩された方・赤ちゃんが当センターに入院中の方を対象とし、母乳育児支援を行っています。



4 成育ホスピタリティー

妊産婦さんが快適に入院生活を送り、また当センターで分娩したいと思っていただけるように多職種で協同し、様々な取り組みを行っています。今年度はこだわりの素材を使用したリネン類やアメニティを採用した「手ぶら入院」。展望レストラン銀座スエヒロでの夜景と食事を楽しむ「お祝いディナー」を導入しました。



5 コアラサポート(産後ケア)

当院で出産された方を対象にコアラサポート(産後ケア)を行っています。産後のからだところの回復に向けて、一人ひとりのニーズにあったケアを行っています。助産師が中心になって専門性の高い育児サポートを提供するとともに、退所後も自立した子育てをご自宅で実践できるような支援と情報提供を行っています。



6 プレコンセプションケア(PCC)

コンセプション(Conception)は受胎、つまりおなかの中に新しい命を授かることであり、プレコンセプションケア(Preconception care)とは、将来の妊娠を考えて女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。当院では、プレコンセプションケアセンターを日本で初めて開設しました。助産師は、医師の診察のサポートとして事前の電話問診を行っており、妊娠前の不安や悩みに寄り添うケアを心がけております。



女性の健康総合センター

女性の健康総合センター(Integrated Center for Women's Health: ICWH)は、国立成育医療研究センターに「女性の健康」に関するナショナルセンター機能を持たせ、女性の健康・疾患に特化した研究の推進や、女性の健康に関わる最新のエビデンスの収集・情報提供を行うことを目的に設立されました。女性はホルモンバランスなどの変化により、思春期・青年期・更年期・老年期などライフコースごとに健康課題が変わり、特有のライフイベントとして妊娠・出産があります。女性が社会で活躍し続けるためには何が必要なのか、どう支援していけばいいのかを考え、発信するために、下記のようなさまざまな取り組みを行っています。

取り組み

女性の健康に関するデータの構築

女性の健康に関するデータは散在し、利用する研究者・企業が少ない現状があります。こういった課題を解決し、使いやすいデータとなるよう、データの収集や管理、解析などを行い、データ情報を整理して可視化することや、データクリーニング、統合IDの付与、データ提供窓口などの機能を一元的に担っています。

女性のライフコースを踏まえた基礎研究・臨床研究の積極的推進

女性の健康課題は極めて多岐にわたるため、医学的な視点だけではなく、社会学や経済学など多様なアプローチで研究を推進してきます。また、研究成果の社会実装化を推進するために、オープンイノベーションセンターを設立し、民間企業などとの協働も行っていきます。

情報収集・発信、人材育成、政策提言

情報収集・発信、政策提言では、女性の健康総合センターで創出されたエビデンスを広く発信していくだけでなく、そのエビデンスを生かして、標準化した教育プログラムや教育コンテンツの開発を行い人材育成にも力を入れています。

女性の体とこころのケア

妊娠の希望の有無に関わらず、将来のライフプランを考えて、日々の生活や健康と向き合うことで将来の自分の健康に繋げていく「プレコンセプションケア」について、全国に浸透させていくための取り組みや、相談・健診・カウンセリングなども行っていきます。また、妊娠と薬情報センターでは、これまで行ってきた相談業務の拡充、医療従事者への教育研修など、一般も含めた情報発信を行い、さらには製薬企業との共同研究も検討しています。

女性に特化した診療体制の拡充

女性に対して幅広い診療を提供する「女性健康診療センター」を成育医療研究センターの病院内に立ち上げます。女性内科、女性外科/婦人内科、不妊治療科、女性精神科、女性歯科の5つの診療科で構成され、互いに連携し、女性に対して総合的な診療を提供します。

もみじの家

継続的な医療ケアを必要とする子どもと家族が安らげる場所として、2016 年 4 月医療型短期滞在施設を開設しました。自宅で医療ケアを受けている子どもと家族を短期間受け入れ、一人ひとりが子どもらしい生活、くつろいだひと時を過ごせるよう、さまざまな医療ケアに対応します。同世代の子どもたちと遊んだり学んだり、普段自宅ではなかなかできないことをして過ごすことができるよう、日中活動を計画します。家のような安心・リラックスできる団欒の場をつくり、子どもの成長・発達に応じて“わくわく”する体験を提供します。また、子どもに「寂しい思いをさせたくない」「幼少期のため手を離せない」「スタッフに普段の子どものケアを伝えるため、初めのうちは泊まりたい」といった方々のため、家族で滞在できる部屋も設けています。そして、限りのある“いのち”を大切な人と穏やかに過ごすための場所としても使われます。



就職希望者説明会

就職説明会については、ホームページでお知らせいたします。ご確認ください。

お問い合わせ

国立成育医療研究センター 看護部 副看護部長室（東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号）

TEL/03-3416-0181（内線5006）

応募資格

有資格者＜助産師・看護師＞、または来年度3月卒業見込みの者、夜勤（二交替勤務）ができる方、心身共に健康な方

応募手続き

次の必要書類を国立成育医療研究センター人事部人事課人事係へ郵送してください。（21P下部に詳細住所を記載しております。）

必要書類

必要書類	有資格者	卒業見込み者	必要書類	有資格者	卒業見込み者
自筆履歴書（当院指定のもの）※1	○	○	看護師免許証（写）	○	
成績証明書 ※2	○	○	助産師免許証（写）	○	
卒業見込み証明書		○	保健師免許証（写）	○	
卒業証書（写）（高等学校以上全て）	○	○			

応募書類受理後受験案内を送付致します。

※1 履歴書の書式は当院指定のものをご利用ください。また手書きでのご記入をお願いします。

※2 助産師受験者の成績証明書は看護学校もしくは看護学部時の成績証明書と一緒に提出してください。
選考に必要なため、発行可能な学期分までを期間内に提出してください。

選考方法

第1次審査（書類）、第2次審査（面接） ※面接は全て対面で行います。

採用試験日、選考の詳細につきましては、ホームページをご確認ください。

- 当センター指定の履歴書に希望する受験日をご記入ください。
- 必要書類は必ず郵送してください。必要書類は、「必着」です。
応募期間最終日の17:00までに人事課へ届かなかった書類は無効となります。
- 応募書類は返却いたしません。ご了承ください。
- 希望する試験日の応募期間をよくお確かめの上ご応募ください。
- 面接日の約1週間前までに第1次審査の可否を通知いたします。
- 1回受験された方は、再度の受験はお受けできません。
- 定員に達し次第、採用試験は途中でも終了となります。ホームページでお知らせいたします。

合格発表

メールにて通知いたします。

採用（予定）月日

翌年度4月1日

処遇

給 与 2023年4月の入職者の実績（諸手当込みの概算）

職種	初任給	年収
看護師（3年制 看護学校卒）	319,000 円	約 526 万円
看護師（4年制 大学卒）	330,000 円	約 544 万円
助産師	334,000 円	約 551 万円

諸手当：夜勤手当、夜勤看護等手当、超過勤務手当、地域手当 他
賞 与：年 2 回（6 月、12 月） ※4.5 カ月（2023 年度実績）

※職歴等に基づいて基本給が加算されるため、給与額には差が生じます。

休暇等 4週8休、年次休暇、病気休暇、リフレッシュ休暇、結婚休暇、
産前・産後休暇、育児休業 他

勤務時間

二交替	日 勤	8：30 ～ 17：15	PICU・NICU 二交替	日 勤	8：30 ～ 17：15
	夜 勤	16：00 ～ 9：30		長日勤	8：30 ～ 21：15
				夜 勤	20：00 ～ 9：30

その他

- (1) 院内に看護師宿舎（ワンルームタイプ）があります。
入寮期間は最長4年です。新卒看護職員のみ利用できます。
社会人経験者（看護職以外も含む）はご遠慮いただいております。
- (2) 院内教育は成育医療・看護の分野における専門的知識、
技術の習得のためのプログラムを計画しています。
- (3) 環境：周辺には都立砧公園・美術館、区立総合運動場
などがあり、緑も多く恵まれた環境にあります。
- (4) 応募書類は、個人情報保護法に基づき、当院において
責任をもって処分させていただきます。



看護師宿舎

必要書類送付先 / 応募についてのお問い合わせ

国立成育医療研究センター 人事部人事課人事係

住所 〒157-8535 東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号 TEL 03-3416-0181（内線 5102・5131）

